

2016年度 調査結果（2015年6月発行）

## 外国人留学生の就職活動状況

日本企業のグローバル化が加速する中、優秀な外国人留学生の採用をめぐり、各企業がしのぎを削る状況が続いている。政府も外国人留学生の就職支援を強化するなど喫緊の課題となっている。ディスコでは日経就職ナビに会員登録している、就職活動中の外国人留学生を対象に、職業観や就職活動状況など調査した。一部、国内学生や海外の大学で学ぶ日本人留学生の調査データを引用しながら分析する。

### 【主な調査内容】

- |                              |               |
|------------------------------|---------------|
| 1. 現在の語学力（日本語力・英語力）          | ・・・・・・・・ P 2  |
| 2. 就職後のキャリアプラン               | ・・・・・・・・ P 3  |
| 3. 就職したい理由                   | ・・・・・・・・ P 3  |
| 4. 就職先企業を選ぶ際に重視する点           | ・・・・・・・・ P 4  |
| 5. 出世希望ランク                   | ・・・・・・・・ P 4  |
| 6. 卒業後の最初の就職希望地と海外拠点への赴任意向   | ・・・・・・・・ P 5  |
| 7. 現時点での志望業界                 | ・・・・・・・・ P 6  |
| 8. 就職したい企業規模                 | ・・・・・・・・ P 7  |
| 9. 就職活動量と内定状況                | ・・・・・・・・ P 7  |
| 10. 就職戦線の見方                  | ・・・・・・・・ P 8  |
| 11. 企業研究をする上で知りたい情報と不足している情報 | ・・・・・・・・ P 9  |
| 12. 就職活動の情報源                 | ・・・・・・・・ P 10 |
| 13. インターンシップの経験              | ・・・・・・・・ P 11 |
| 14. 留学をした感想                  | ・・・・・・・・ P 12 |

### 《調査概要》

調査対象：2016年3月卒業予定の外国人留学生（現在、大学4年生・大学院修士課程2年生）  
 調査方法：インターネット調査法  
 調査期間：2015年5月7日～29日  
 サンプルング：日経就職ナビ2016に登録している外国人留学生3,715人

回答者の属性 単位：人

	男子	女子	合計
文系	155	238	393
理系	77	36	113
合計	232	274	506

大学院	277	国公立	227
学部	229	私立	279
合計	506	合計	506

#### ●出身国・地域

中国	韓国	台湾	東南アジア	南アジア	東欧	アフリカ	北米	中南米	その他	不明	合計
414	39	20	20	2	1	0	1	2	4	3	506

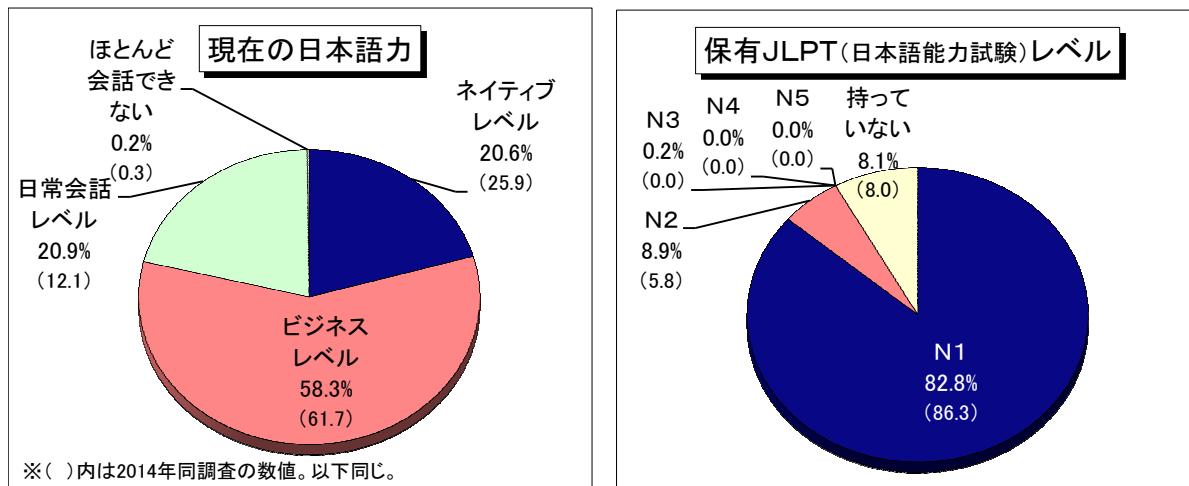
※国内学生の調査結果は「日経就職ナビ2016 就職活動モニター調査」（2014年11月、2015年1月、2月、5月調査）より  
 ※日本人留学生の調査結果は「海外留学生の就職活動に関する調査結果」（2015年4月発行）より

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505／株式会社ディスコ キャリアリサーチ

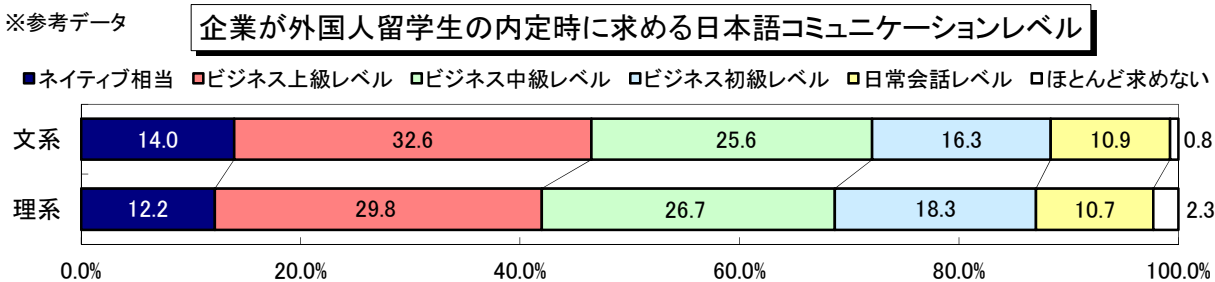
日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

### 1. 現在の語学力 (日本語力・英語力)

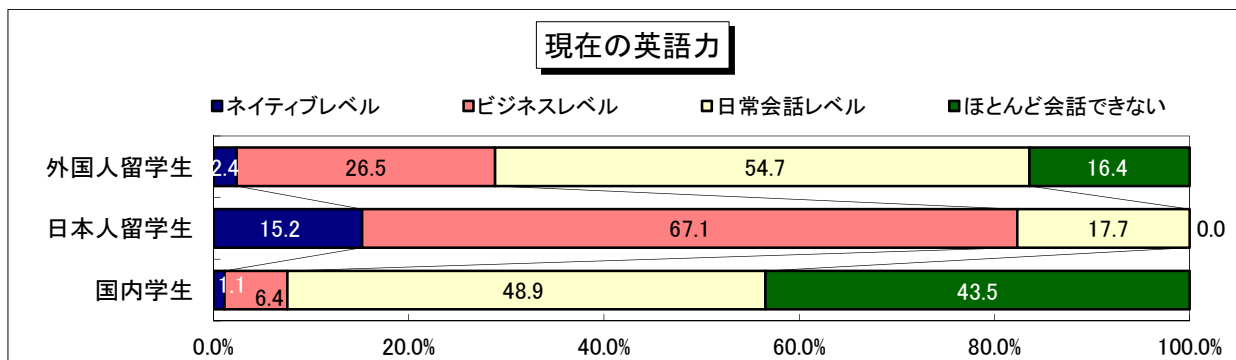
はじめに、現在の語学力を尋ねた。日本語力については、「ネイティブレベル」が20.6%、「ビジネスレベル」が58.3%と、ビジネスレベル以上の日本語を話せると回答した学生は8割を切り、昨年調査と比べて10ポイント近く下がった。JLPT (日本語能力試験) のレベルは、最高レベルである「N1」を保有している学生が82.8%と8割を超えているが、昨年を比べると3.5ポイント減っており、相対的に日本語能力が低下している様子がうかがえる。



■JLPT(日本語能力試験)とは?  
日本語を母国語としない人の日本語能力を測定し認定する試験。  
【N1】幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。  
【N2】日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。  
【N3】日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。  
【N4】基本的な日本語を理解することができる。  
【N5】基本的な日本語をある程度理解することができる。

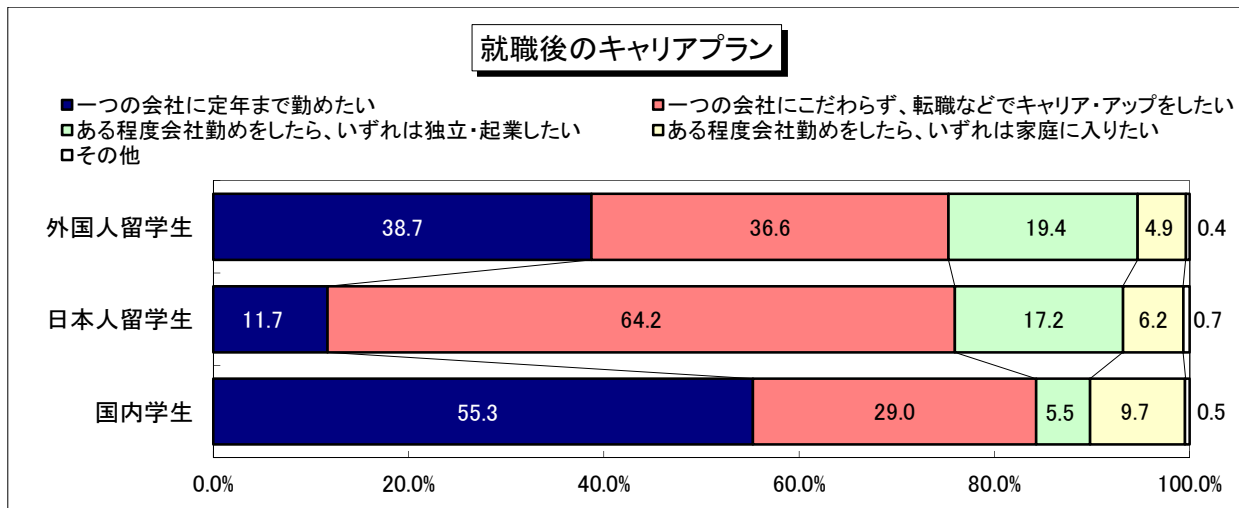


英語力については、「ネイティブレベル」が2.4%、「ビジネスレベル」が26.5%と、3割弱がビジネスレベル以上の英語を話すことができると回答。欧米など海外の大学で学ぶ日本人留学生と比べると低いですが、日本国内の学生でビジネスレベル以上の英語を話せる学生は1割にも満たないことから(7.5%)、外国人留学生は相対的に高い英語力を有していると言える。



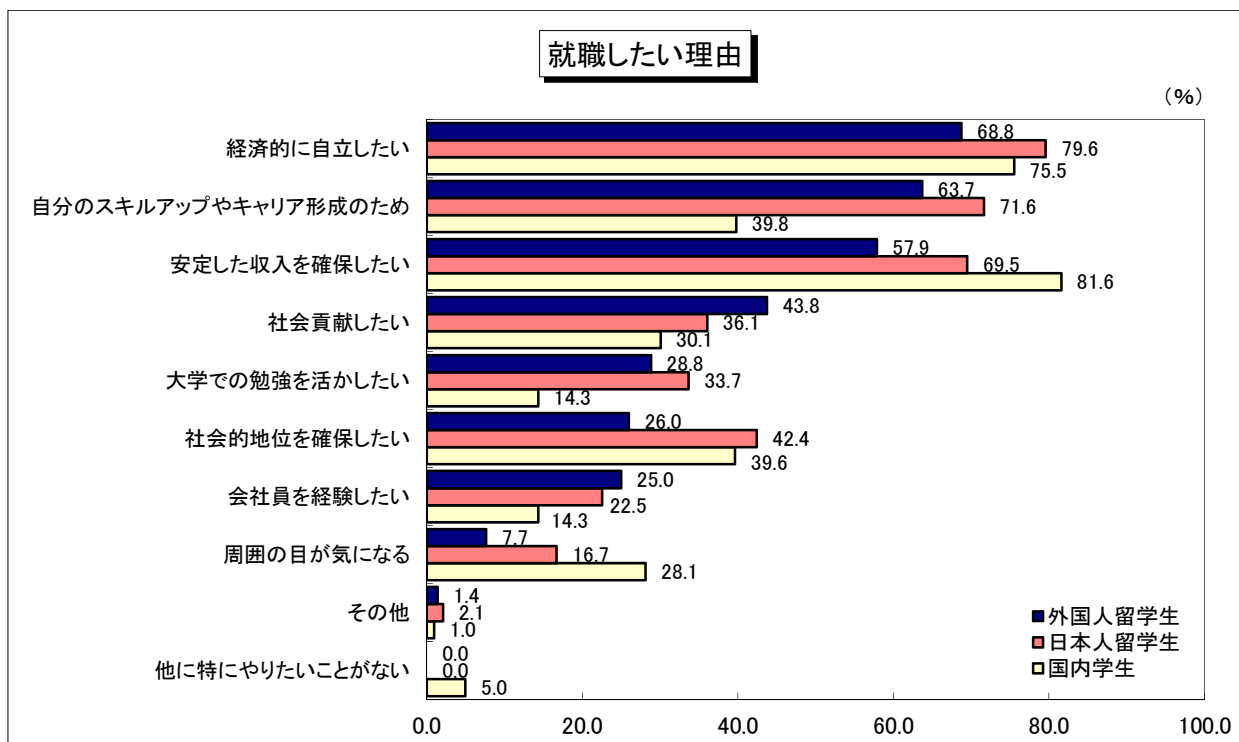
## 2. 就職後のキャリアプラン

就職後のキャリアプランについては、外国人留学生は「一つの会社に定年まで勤めたい」と回答した学生が 38.7%で他の選択肢を上回った。他方、「ある程度会社勤めをしたら、いずれは独立・起業したい」という回答も 19.4%と、日本人留学生の 17.2%や国内学生の 5.5%よりも高く、終身雇用志向の一方で独立・起業志向の学生の割合も多く占める結果となった。



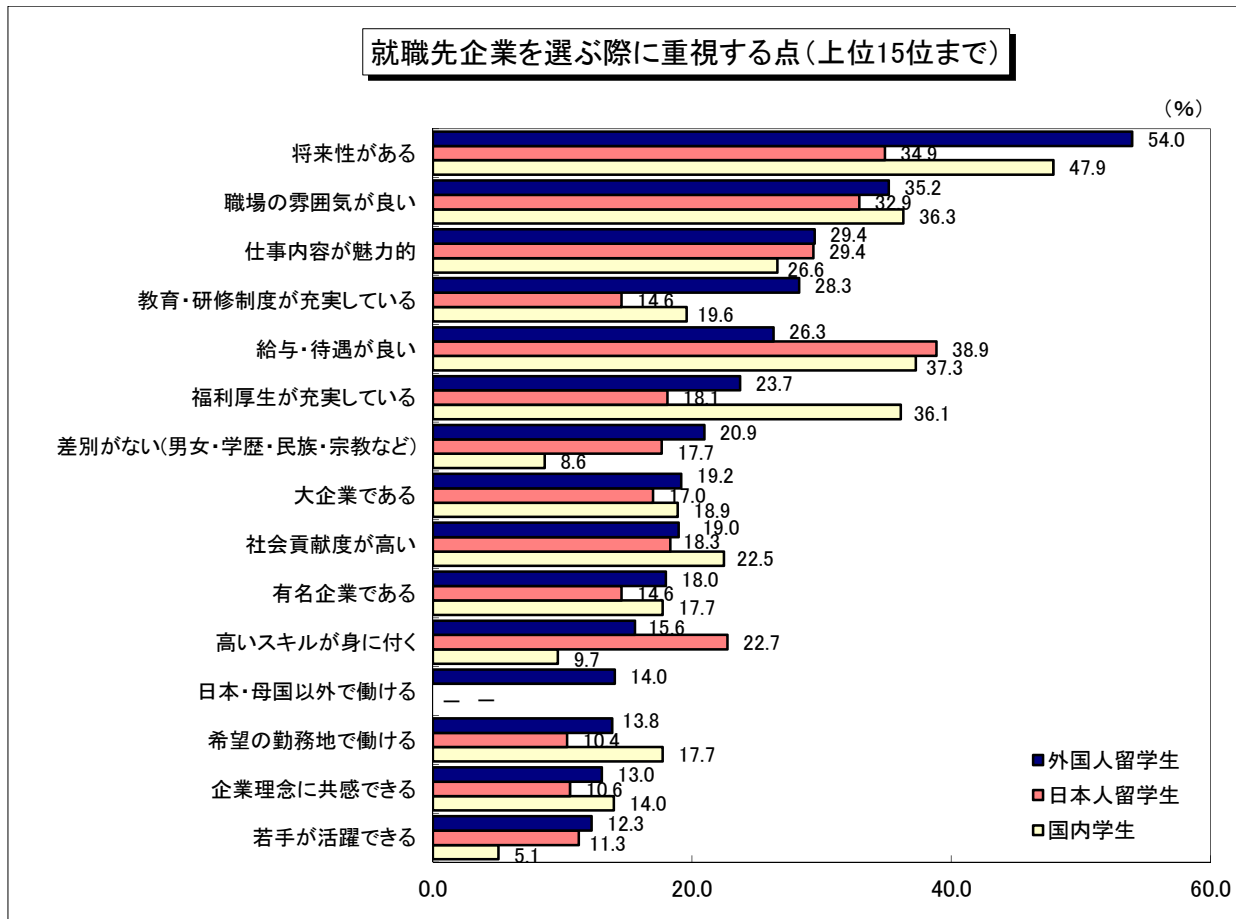
## 3. 就職したい理由

就職をしたい理由について尋ねた。「経済的に自立したい」が 68.8%で 1 位、次いで「自分のスキルアップやキャリア形成のため」が 63.7%と続く中、「安定した収入を確保したい」57.9%で昨年調査（48.2%）と比べて 10 ポイント近く増えた。就職意識が日本国内学生に近づきつつあるようにも見てとれる。



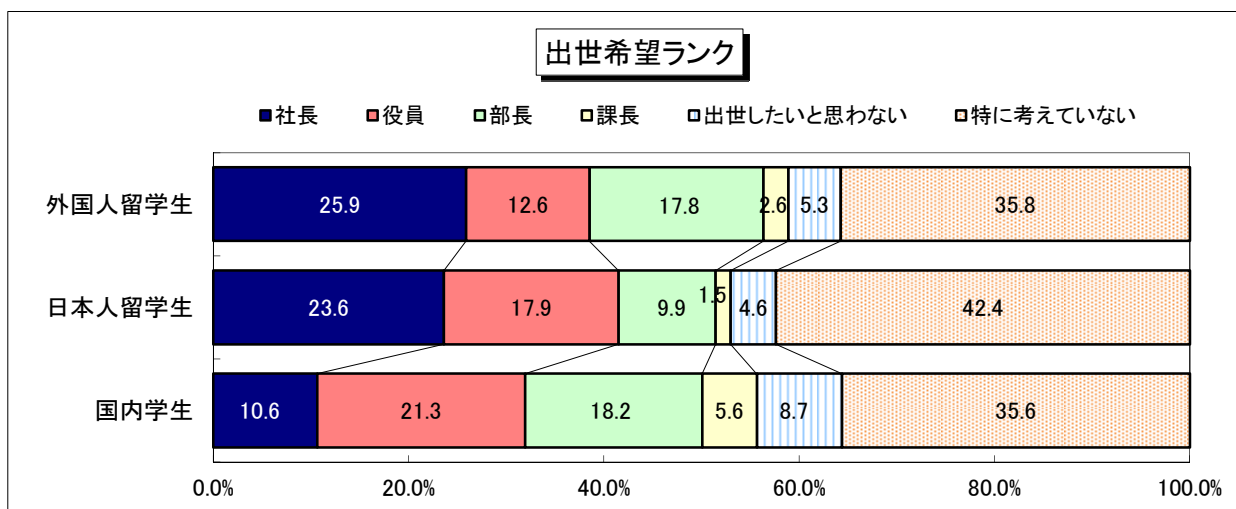
#### 4. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先を選ぶ際に重視する点は、「将来性がある」が54.0%と最も多かったが、「職場の雰囲気が良い」が35.2%と昨年調査の4位から2位に上がった（昨年は26.8%）。選社基準においても日本国内学生に考え方が似通ってきているようだ。



#### 5. 出世希望ランク

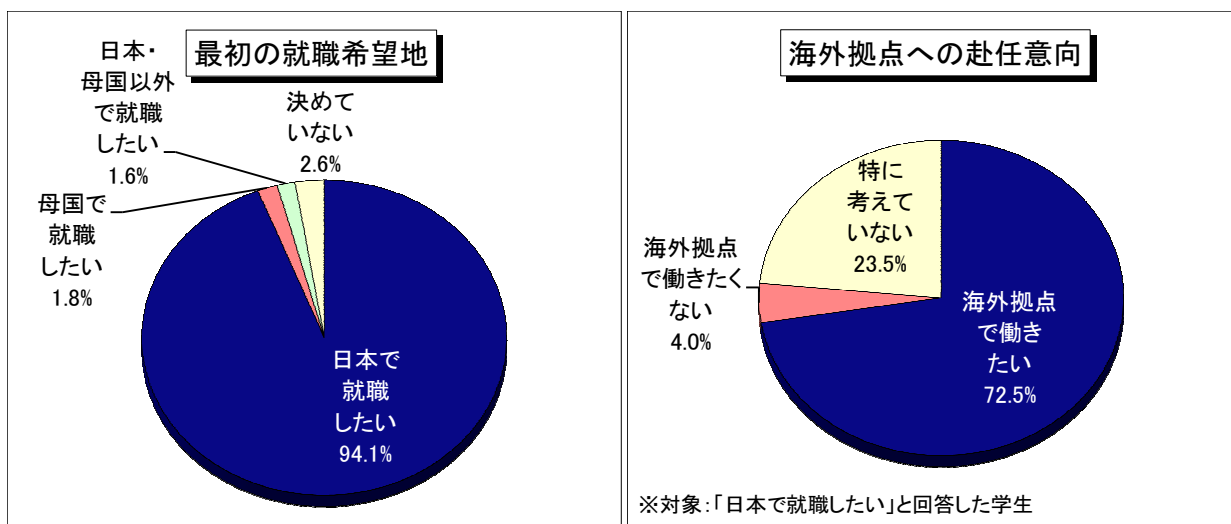
外国人留学生の出世希望ランクについては、「社長」と回答している学生が25.9%と最も多く、また日本人留学生や国内学生との比較でも最も高かった。出世志向・独立志向は日本人と比べても強いことがわかる。



### 6. 卒業後の最初の就職希望地と海外拠点への赴任意向

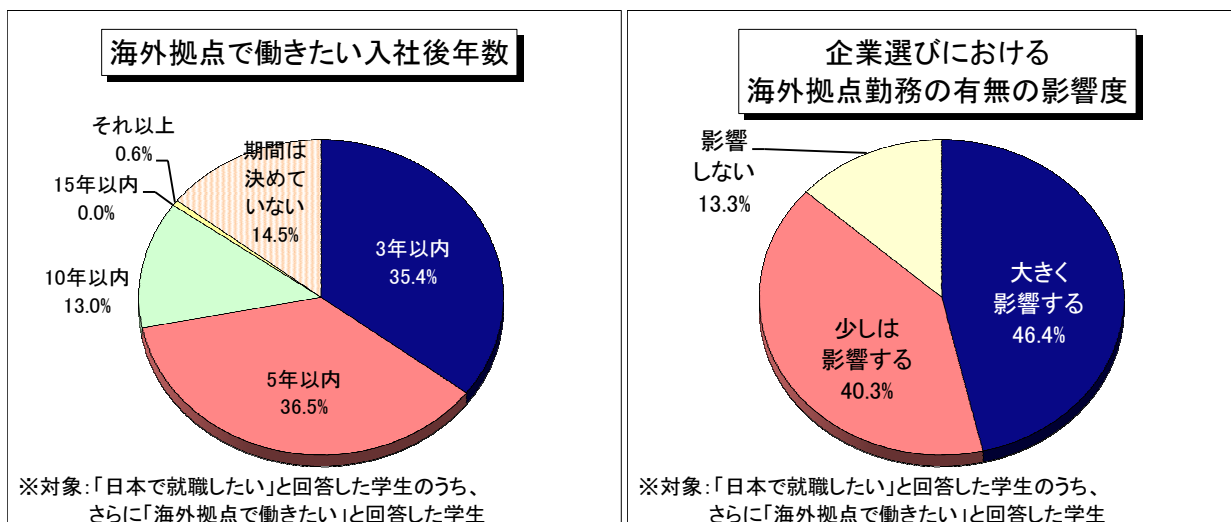
外国人留学生の最初の就職希望地については、94.1%の学生が「日本で就職したい」と回答しており、ほとんどの学生は、卒業後、まずは日本で働きたいと考えていることがわかった。

「日本で就職したい」と回答した学生に、さらに日本で就職後にその企業の海外拠点で働きたいか（赴任意向）を尋ねたところ、「海外拠点で働きたい」と回答した学生が72.5%と圧倒的に多く、逆に「海外拠点で働きたくない」と回答した学生は4.0%とごく少数に留まった。



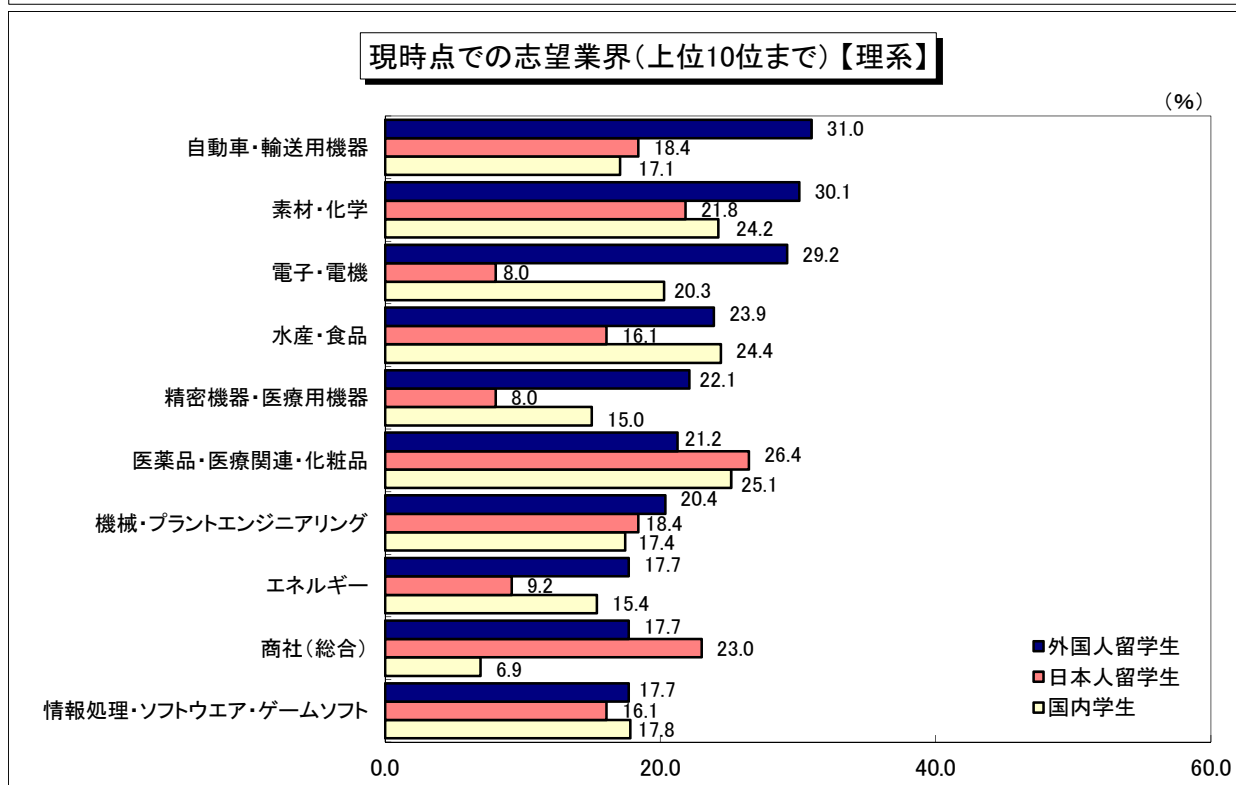
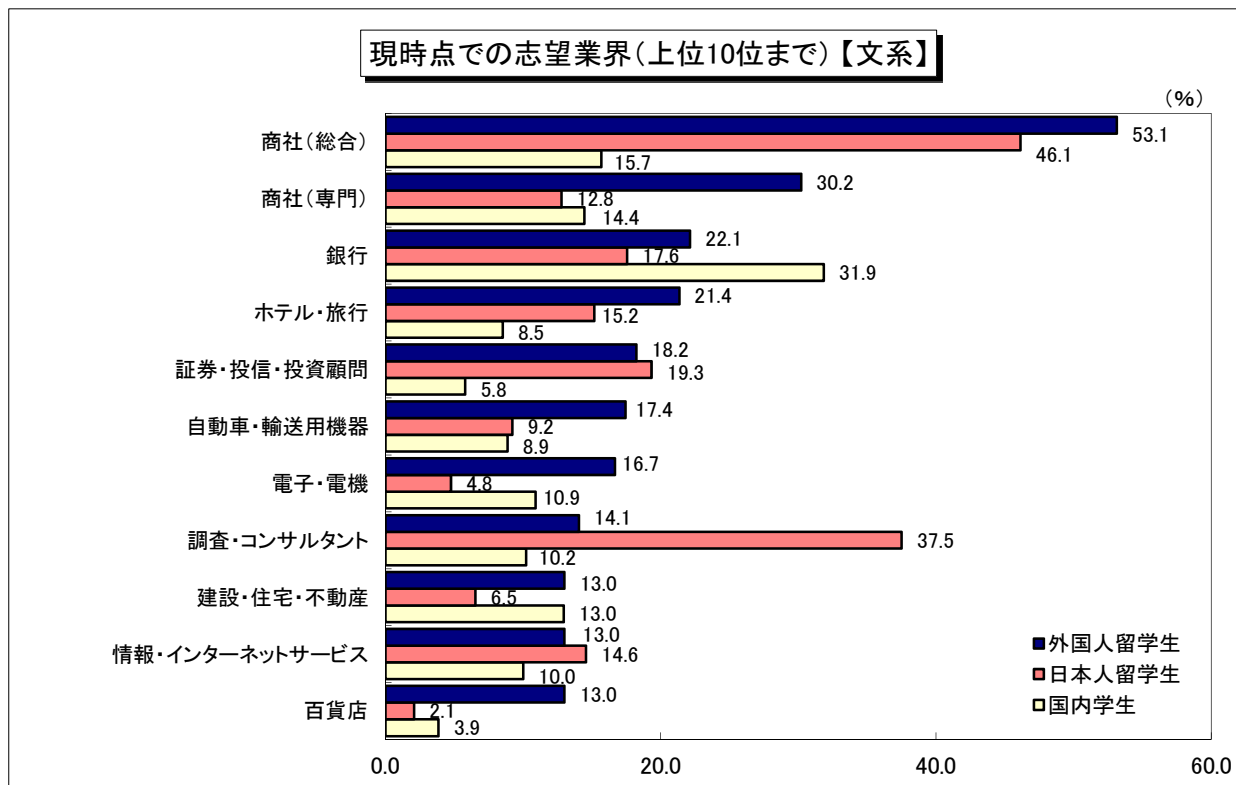
また、「日本で就職したい」と回答した学生のうち、さらに「海外拠点で働きたい」と回答した学生に、入社してから何年後に海外拠点で働きたいかと尋ねたところ、「3年以内」が35.4%、「5年以内」が36.5%であることから、入社後、早い段階から赴任したいと考えている学生が多いことがわかる。

また、就職先企業を選ぶ際に、海外拠点への勤務の有無が影響するかについても尋ねたところ、「大きく影響する」と回答した学生が46.4%、「少しは影響する」と回答した学生が40.3%と、9割弱の学生にとって、企業選びの際に海外拠点への赴任があるか否かが影響していることがわかった。



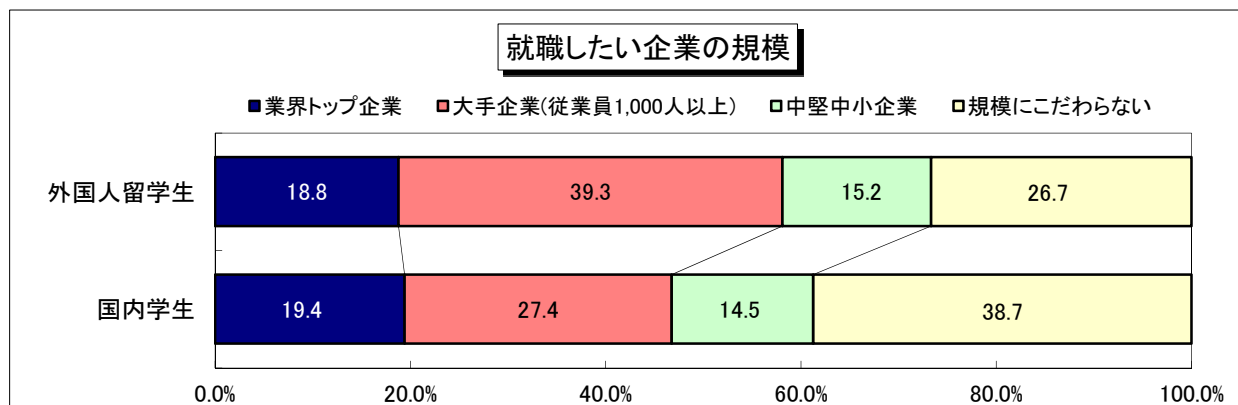
### 7. 現時点での志望業界

外国人留学生の志望業界は、文系では「商社(総合)」が53.1%、次いで「商社(専門)」が30.2%と、商社が上位を独占。語学堪能者が活躍できる国際業務に人気が集まった。理系では「自動車・輸送用機器」が31.0%と一番多く、続いて「素材・化学」が30.1%となった。近年の日本の技術力の高さを代表する両業界に人気が集まった格好だ。昨年調査は文・理系ともに2位だった「電子・電機」はそれぞれ7位、3位と後退した。



## 8. 就職したい企業規模

就職したい企業規模については、「業界トップ企業を中心に活動」が 18.8%、「大手企業（従業員 1,000 人以上）を中心に活動」が 39.3%と、大企業を希望している学生が半数を超えており、国内学生よりも一層大手志向が強い。「規模にこだわらない」と回答した学生が国内学生と比べて少なかったことから、外国人留学生は希望の企業規模を明確にして就職活動をしていることがうかがえる。



## 9. 就職活動量と内定状況

今回調査を実施した 2015 年 5 月時点でのエントリー社数は外国人留学生全体で 32.8 社と、ほぼ同時期の日本人学生の 50.8 社に比べて 3 割以上少ない社数であった。しかし、セミナーに参加した社数は全体では 32.5 社で、国内学生の 41.9 社と比較して差は縮まっており、外国人留学生は直接情報を入手できる機会をより積極的に活用している様子が見られる。

5 月時点で内定を得ているのは全体で 5.5%と、国内学生の 17.9%と比べると内定率は低く、国内学生と比べて就職活動の進捗が遅れている様子が表れている。

### エントリー社数

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	【国内学生】
エントリー社数	32.8	32.2	36.2	22.5	35.6	50.8

### セミナー参加社数

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	【国内学生】
企業単独開催セミナーの社数	10.5	11.5	10.3	9.9	8.6	14.4
合同開催セミナーでの訪問社数	13.1	13.2	13.2	14.1	9.3	14.2
学内開催セミナーでの訪問社数	9.0	5.9	7.6	19.7	9.2	13.3
合計	32.5	30.6	31.1	43.8	27.2	41.9

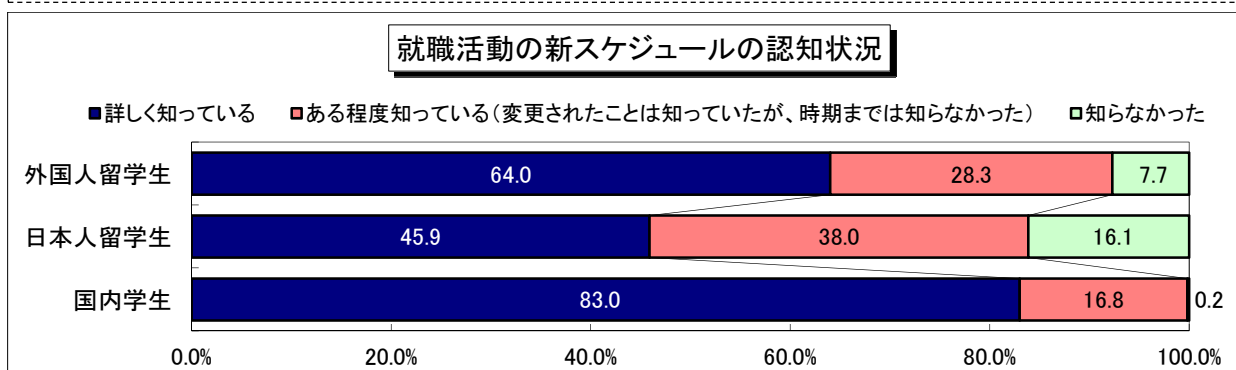
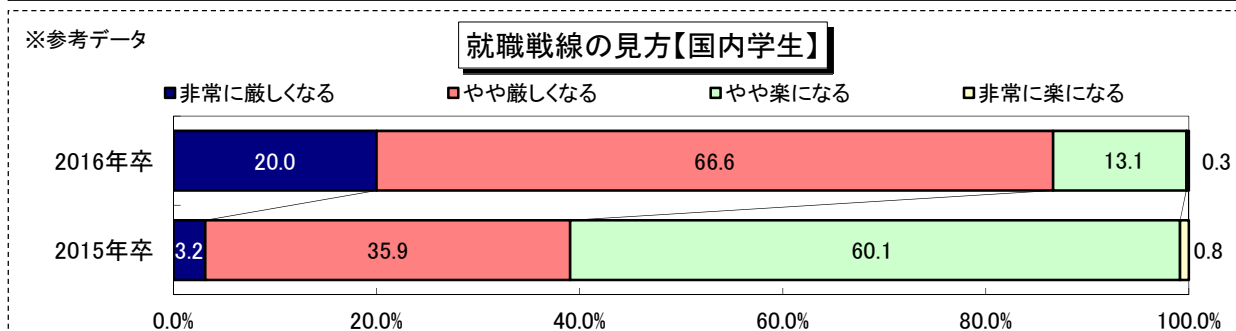
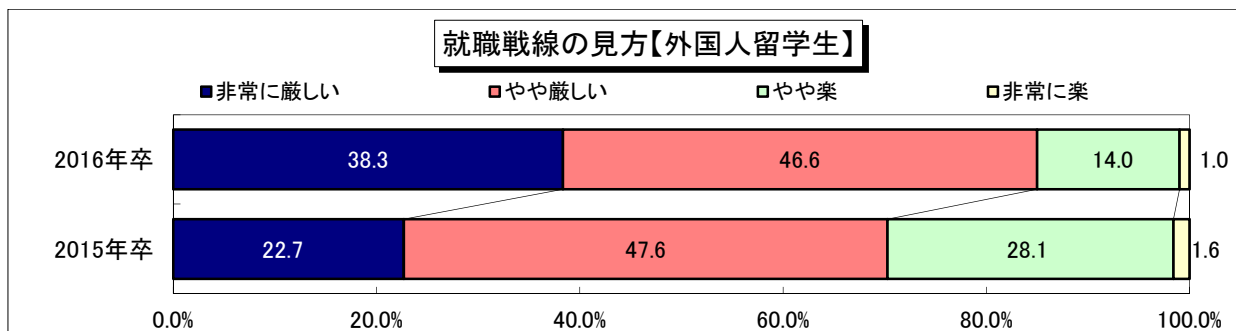
### 内定状況／内定社数

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	【国内学生】
内定あり	5.5	5.8	5.0	5.2	8.3	17.9
内定なし	94.5	94.2	95.0	94.8	91.7	82.1
内定社数／平均（社）	1.3	1.6	1.1	1.0	1.3	1.3

### 10. 就職戦線の見方

就職戦線をどのように見ているかを尋ねたところ、「非常に厳しい」と感じている学生は、2015年卒者では22.7%だったのが、2016年卒者では38.3%と大きく跳ね上がった。この傾向は国内学生も同様で、採用スケジュールの変更で就職活動全般が不透明であること、短期決戦となることなど、不安が先行していることが数字に表れていると言えよう。

なお、就職活動のスケジュールが大幅に変わったことについては、64.0%が「詳しく知っている」、28.3%が「ある程度知っている」と答えており、懸命に情報を手に入れていることがわかる。



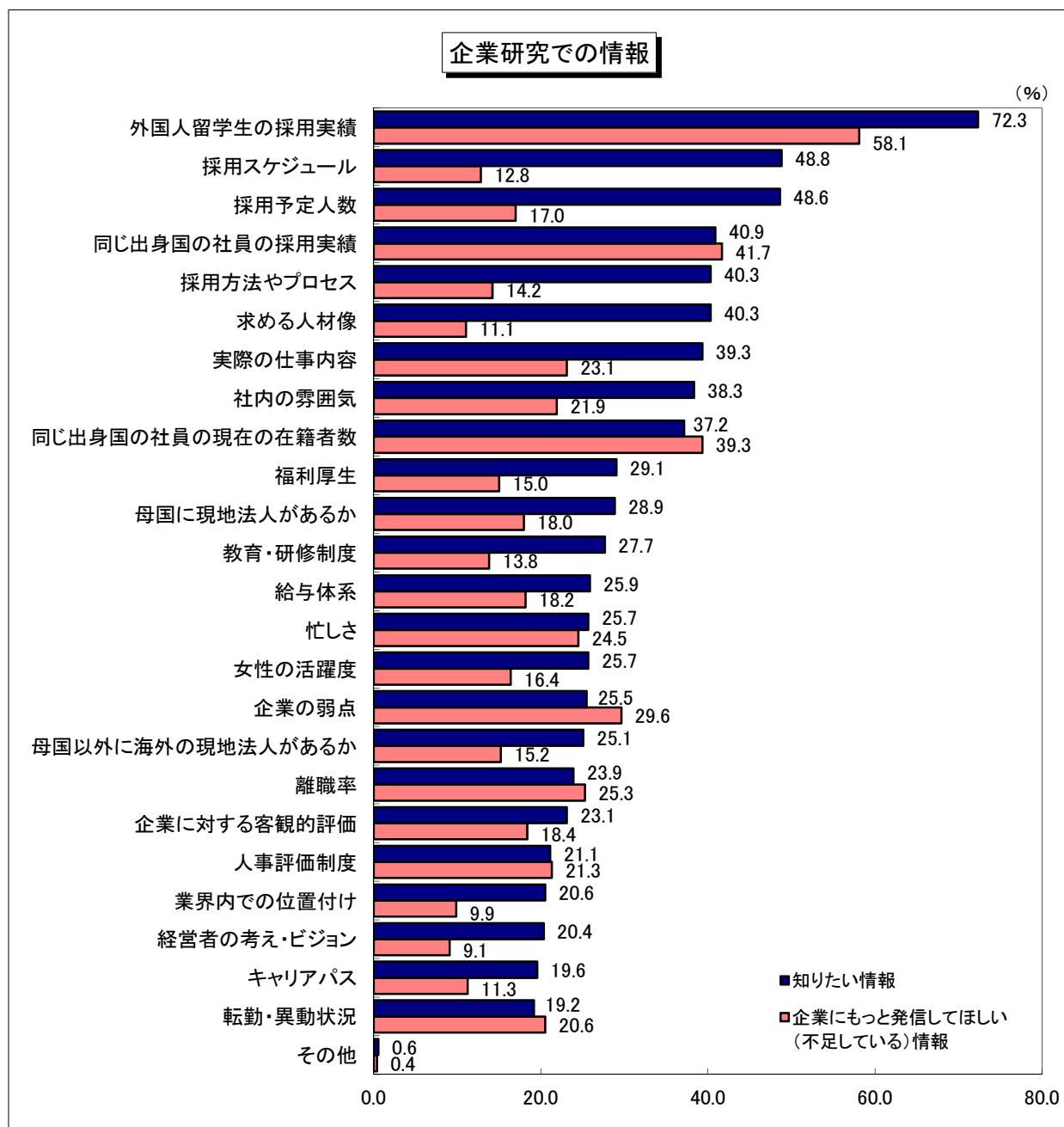
- 外国人ですし、情報の収集面はよくないと思います。ですから、就職の時間の変化により、先輩の経験が参考にならないで、困ります。
- 就職活動期間が非常に短縮されて、万が一、一次募集に失敗した場合は、二次募集のチャンスがほとんどないと思います。
- スケジュールの変化により学生は外資と日系それぞれ異なる期間で選考を受けることが可能。よって競争が激しくなる。
- 中小企業においては、かなり人材を必要とする状況になっているため、就職のチャンスが多いのではないかと思います。
- 日本の企業は外国人留学生を採用する目的をはっきりしてないので、面接を受けたのにどこで落とされるかわかりません。外国人がいらないのか、それとも自分に何が足りないのかをととも知りたいです。



### 11. 企業研究をする上で知りたい情報と不足している情報

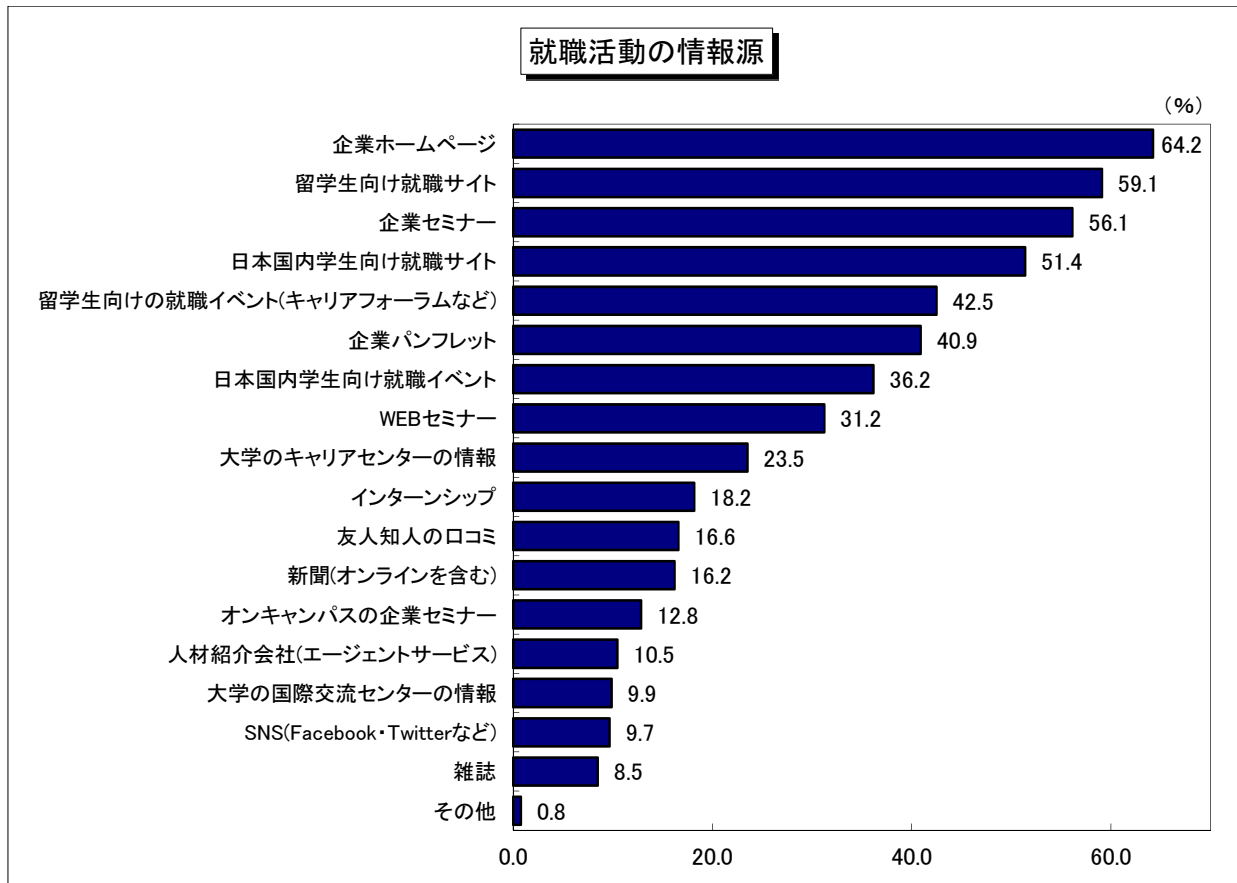
「企業研究をする上で知りたい情報」と「不足していると感じている情報」について聞いた。「企業研究をする上で知りたい情報」では「外国人留学生の採用実績」が72.3%、「同じ出身国の社員の採用実績」が40.9%、「同じ出身国の社員の現在の在籍者数」が37.2%と、同一出身国の採用にまつわる情報が多い一方で、「採用スケジュール」「採用予定人数」「採用プロセス」といった採用関連情報にも関心が集まった。

「不足していると感じている情報」については採用関連情報の数値は下がっているが、同一出身国の採用情報については現状では不足しており、企業により一層の情報開示を求めていることがわかる。

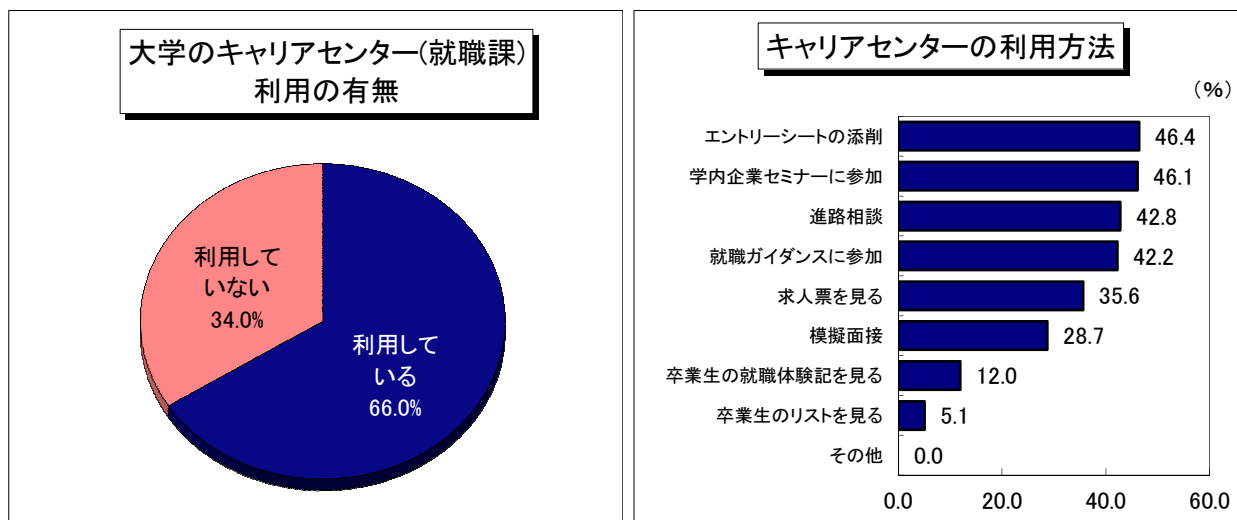


## 12. 就職活動の情報源

外国人留学生が活用している情報源について尋ねた。「企業ホームページ」が 64.2%、「留学生向け就職サイト」が 59.1%と多いが、「日本国内学生向け就職サイト」が 51.4%、「日本国内学生向け就職イベント」が 36.2%と、国内学生向けの情報源も並行して活用していた。

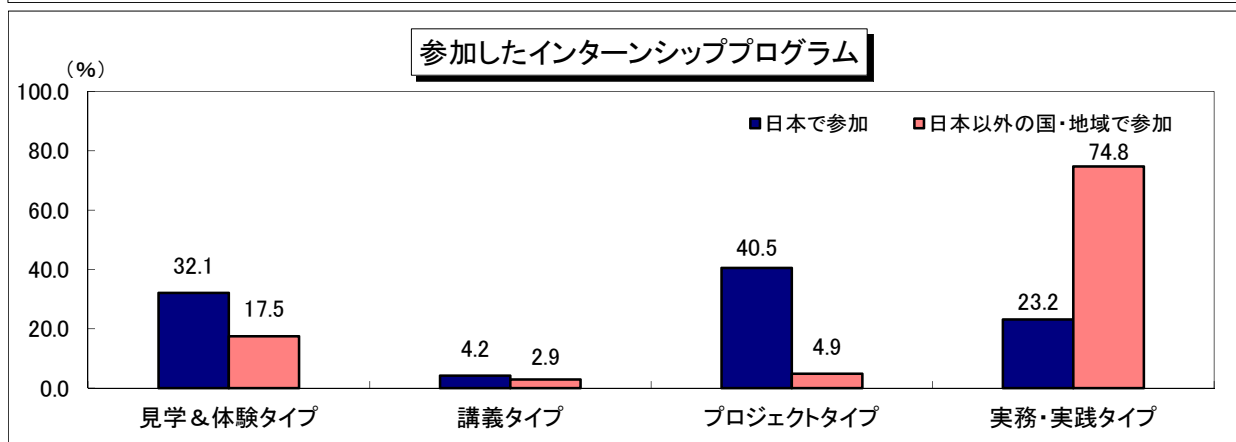
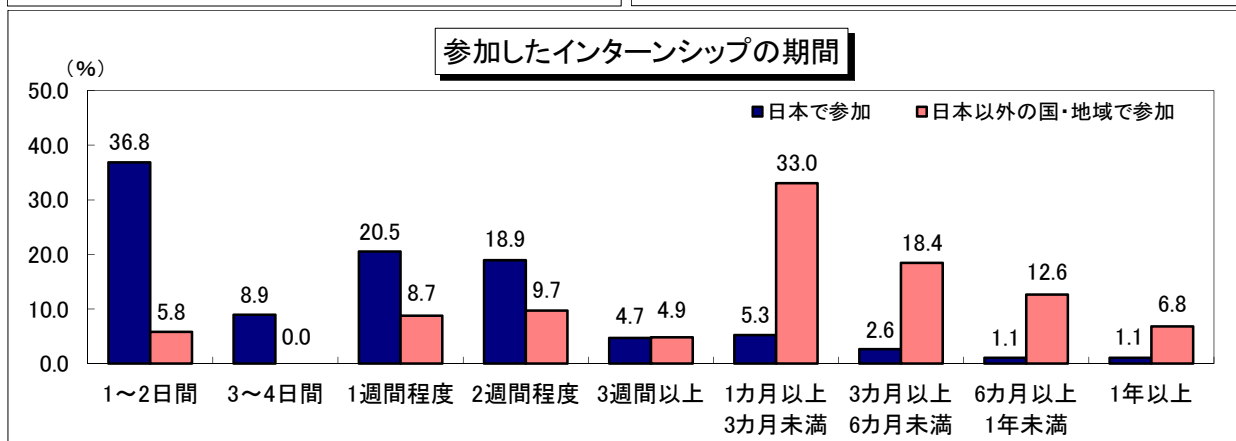
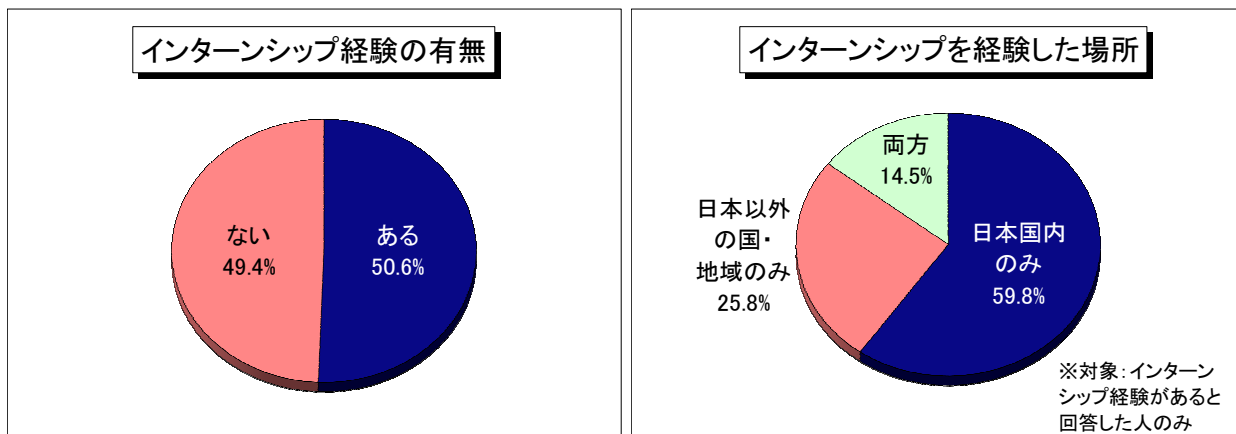


続いて「大学の就職課（キャリアセンター）」の利用については、66.0%が「利用している」と回答した。さらに利用方法についても尋ねたところ、「エントリーシートの添削」が 46.4%と最も多く、国内学生と同様に選考を突破するための具体的な対策についてのアドバイスを求めていることがわかった。



### 13. インターンシップの経験

インターンシップについては、50.6%が「経験あり」と回答した。「日本国内のみ経験」が59.8%、「日本以外の国・地域のみ経験」が25.8%、その両方を経験した学生は14.5%だった。日本国内でのインターンシップの期間は「2週間程度」までが85.1%と大半を占め、日本以外の国・地域で「1カ月以上3カ月未満」が33.0%と3割強を占めるのは対照的。プログラムの内容は、日本以外の国・地域では「実務・実践タイプ」以外が74.8%を占めたが、日本国内では23.2%にとどまる。日本と日本以外では大きな相違が見られ、どこで参加するかで経験に差が出ると言える。



(注) 各プログラムの違い

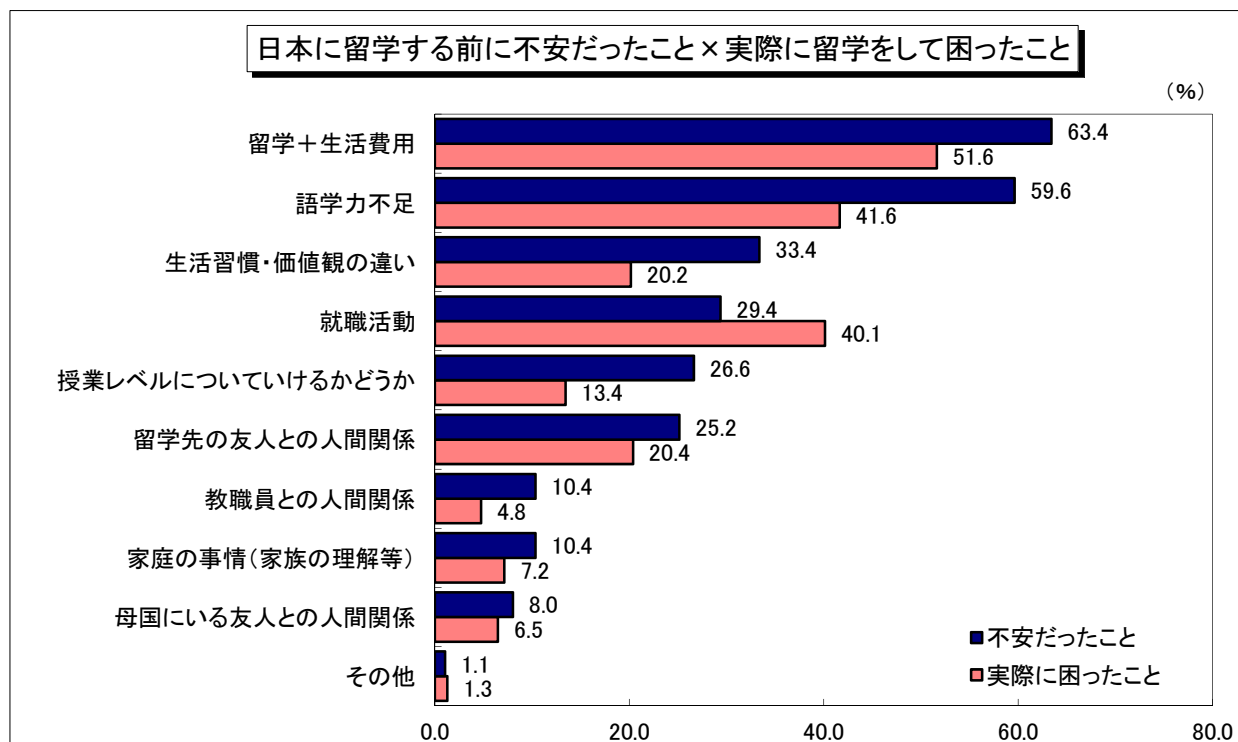
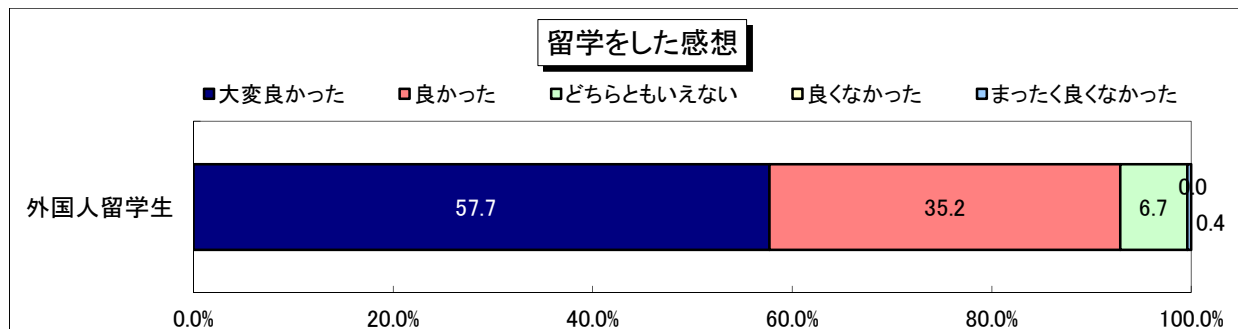
- 見学&体験タイプ = 実際の職場で業務について説明を受け、仕事を少しだけ体験できる。
- 講義タイプ = 業界・企業・仕事についての講義のなかで、その企業の事業内容を理解し、「働く」について学ぶ。
- プロジェクトタイプ = 学生でチームを組み、その企業の事業にかかわる課題に取り組む。
- 実務・実践タイプ = 各部署に配属され、スタッフの一人として業務を任される。

※複数のプログラムを組み合わせて実施する場合には、主なもの1つを選択

### 14. 留学をした感想

日本に留学した感想を聞いた。「大変良かった」が 57.7%、「良かった」が 35.2%と、ほとんどの留学生が日本での留学経験について前向きに評価をしている。

また、「日本に留学する前に不安だったこと」と「実際に留学をして困ったこと」を同じ選択肢で尋ね比較してみると、留学自体の悩みは概ね解消される傾向にあるのに対して、就職に関する悩みだけは「留学前」29.4%から「留学中」40.1%へと増えており、大きくなっている様子が見られた。



- 初めて家族を離れて、たった一人で言葉も文化もまったく違う国で、学費と生活費両方稼ぐための努力が必要だった。
- 自己分析や企業研究など大変だが、母国と比べればかなり自分を鍛えることができ、よい経験だと思う。
- 就職活動のSPI 試験に日本語の量が多くて困っている。
- 就職活動への不安と、異なる文化の表現で自分を証明しなきゃならない点と、日本人が理解できない考えを持っているうえ、それが面接官に通じないこと。
- 慣れたと思うものの、意外と壁が多くある。みんなが好意的なわけではないから、その壁を越えるためあらゆるアプローチをした。
- 外国人のアイデンティティを重視している企業に入りたいです。日本人らしい外国人を採用する企業には入りたくないです。
- 説明会で様々な業界・企業を見て、かなり勉強になった。筆記試験は外国人にとって大きな挑戦だった。